

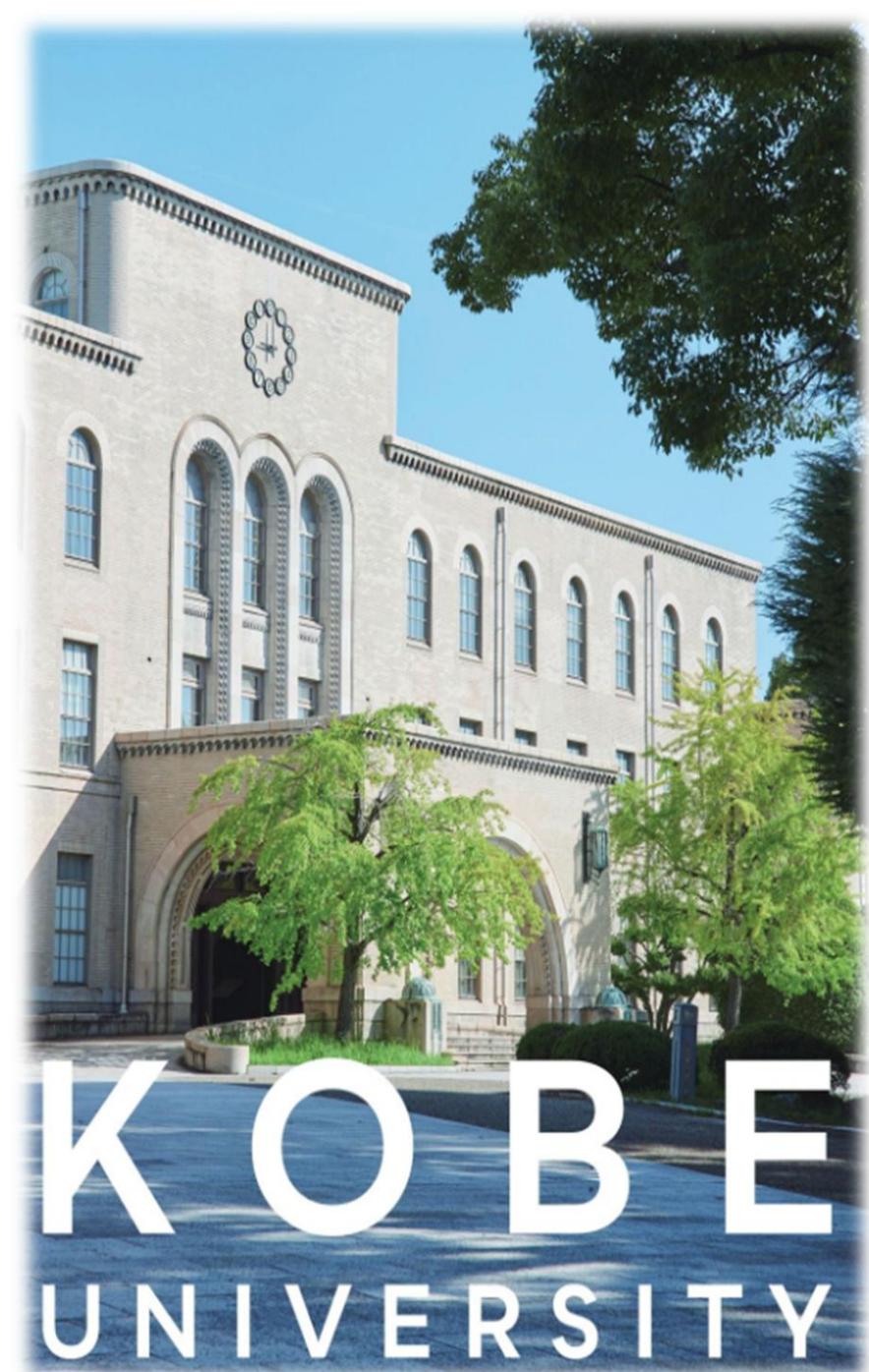
最終更新日 2026/03/18

神戸大学国際文化学研究所 日本語教師養成サブコース

<https://language.sakura.ne.jp/scweb/index.html>

神戸大学国際文化学研究所 「日本語教師養成サブコース」 の概要と取り組み

日本語教師養成サブコース運営委員会
石川慎一郎・川上尚恵・齊藤美穂・林良子



1. コースの概要

神戸大「日本語教師養成SC」小史

- 2015年度 研究科副専攻課程として「日本語教師養成サブコース」設置（学内唯一）
- 2021年度 コーディネーターを他コースから公募
- 2022年度 研究科の研究教育Pに採択（ウェブサイト、交流会、外部講師ビデオ）。50項目対応済み認定（8月）。
- 2023年度 コーディネーターWGが「運営委員会」に。内規精緻化。履修生交流会。拠点申請。
- 2024年度 拠点採択。定例運営委員会開始。委員会予算。対応済み再申請。研究教育P（2期）に採択。オープンバッジ申請採択。登録申請（科目の削減と構造化）・登録。科目提供教員用説明ビデオ制作。履修生交流会。日本語学校見学。JFとの協力提携締結。
- 2025年度 登録後の初回学生受け入れ（8名）。就職支援として年間3回のランチョンセミナー実施。コミュニカ学院との協力提携締結。外部評価。
- 2026年度 初回学生がM2に。後期に新制度での初の実践研修実施予定（後期）。

神戸大SCの特徴

- <研究科設置の副専攻として>
- 1) 専門分野の知見+人文科学の基盤的研究スキル+日本語教授スキルの三者を併せ持った日本語教育人材の養成を目指す
- 2) SC設置の全科目を専任教員が担当。担当教員向けビデオ作製などを通して、専任教員のチーム意識を醸成
- 3) 学際的研究科の特色を生かし、とくに「外国語教育としての日本語教育」の指導を展開
- 4) SCでの学修と修士・博士の専門研究の日常的・体系的往還
- 5) SC学生を支える多様なサポート(ランチョンセミナー、教材配布、ニューズレター、学校見学、etc)

SC在籍学生について

- M2: 2024年度入学 10名
 - アジ太1、文人2、芸術1、言コミ4、外シス1、外コン1
 - 日本人5、留学生5(中国)
- M1: 2025年度入学 8名
 - アジ太1、言コミ3、外コン2、外シス1、モダニティ1
 - 日本人2、留学生6(中国・ブラジル)

SC修了学生数と進路状況

- 累計91名
- 2016年(5)、2017年(15)、2018年(8)、2019年(5)、2020年(10)、2021年(9)、2022年(7)、2023年(9)、2024年(7)、2025年(11)、2026年(5)
- 日本人学生34、中国・台湾留学生51、その他留学生5(ブラジル、ブルガリア、スペイン、モンゴル、ベトナム)、調査中1
- ▣進路 多数はD進学
- 言語教育系への就職者数 約17名 (※非常勤含む、把握分のみ)
- 1) 日本語教員 9 (コミュニカ学院3、海外派遣、フリー等)
- 2) 大学教員 5:筑波大学助教(中国語)、鳥取大学講師(英語)、愛知大学助教(中国語)、追手門大学講師(英語)、ハルビン師範大講師(日本語)
- 3) 小中高教員 3:岡山県立高校教諭(英語)、兵庫県立高校講師(DS)、神戸大附属小学校教諭

養成課程科目

2025年度入学生

別表1

<養成課程・必修科目> 科目名(担当者)	単位数	<養成課程・選択科目> 科目名(担当者)	単位数
レトリカル・コミュニケーション論特殊講義(小松原哲太)	2	社会人類学特殊講義(大石侑香)	2
第二言語習得論特殊講義(田中順子)*	2	越境社会文化論特殊講義(辛島理人)	2
日本語教育方法論特殊講義(齊藤美穂)*	2	言語慣用類型論特殊講義(石田雄樹)	2
日本語教育応用論特殊講義(川上尚恵)*	2	コミュニケーション認知論特殊講義(松本絵理子)	2
言語行動科学論特殊講義(林良子)	2	言語対照基礎論特殊講義(高橋康徳)	2
外国語教育内容論特殊講義Ⅱ(石川慎一郎)	2	外国語教育工学論特殊講義(柏木治美)	2
言語コミュニケーション論演習(川上尚恵)*	2	言語対照応用論特殊講義Ⅰ(芹澤円)	2
外国語教育コンテンツ論演習(石川慎一郎)*	2	越境文化論演習(辛島理人)	2
		言語コミュニケーション論演習(田中順子)	2
		言語コミュニケーション論演習(小松原哲太)	2
		感性コミュニケーション論演習(松本絵理子)	2
		感性コミュニケーション論演習(林良子)	2

2026年度入学生

別表1

<養成課程・必修科目> 科目名(担当者)	単位数	<養成課程・選択科目> 科目名(担当者)	単位数
レトリカル・コミュニケーション論特殊講義(小松原哲太)	2	越境社会文化論特殊講義(辛島理人)	2
第二言語習得論特殊講義(田中順子)*	2	越境文化交流論特殊講義(中條健志)	2
日本語教育方法論特殊講義(齊藤美穂)*	2	越境社会共生論特殊講義(土田千愛)	2
日本語教育応用論特殊講義(川上尚恵)*	2	芸術文化表現論特殊講義(岡本佳子)	2
言語行動科学論特殊講義(林良子)	2	比較・対象言語論特殊講義(南佑亮)	2
外国語教育内容論特殊講義Ⅱ(石川慎一郎)	2	言語慣用類型論特殊講義(石田雄樹)	2
言語コミュニケーション論演習(川上尚恵)*	2	日本語教育内容論特殊講義(王海涛)	2
外国語教育コンテンツ論演習(石川慎一郎)*	2	コミュニケーション構造論特殊講義(南本徹)	2
		コミュニケーション認知論特殊講義(松本絵理子)	2
		言語対照基礎論特殊講義(高橋康徳)	2
		言語文化環境論特殊講義Ⅱ(安田颯)	2
		外国語教育工学論特殊講義(柏木治美)	2
		言語対照応用論特殊講義Ⅰ(芹澤円)	2
		言語コミュニケーション論演習(田中順子)	2
		言語コミュニケーション論演習(小松原哲太)	2
		感性コミュニケーション論演習(南本徹)	2

必修科目の概要

- 第二言語習得論特殊講義(田中) 第二言語習得論が成立した背景を取り上げるとともに、第二言語習得の代表的な理論を概観する。特に英語(或いは日本語)が外国語(あるいは第二言語)である人たちが、英語(或いは日本語)を習得する際に関係する言語学的、認知心理学的な要因と英語習得(或いは日本語習得)のプロセスについて取り上げる。
- 日本語教育方法論特殊講義(齊藤) 日本語非母語話者に対する日本語教育の実践にあたり必要となる、外国語/第二言語教授法やコースデザインに関わる知識について、その理論的背景とともに学び、言語教育に対する理解を深める。
- 日本語教育応用論特殊講義(川上) 日本語教育とそれを取り巻く社会的事象に着目し、言語教育と社会の関係について学び、議論する。そして、日本語教育の現場にそれがどのように反映しているのか、といった問題に受講生自身が考えていく。
- 外国語教育内容論特殊講義Ⅱ(石川) 1) 応用言語学(外国語教育学、第二言語習得論)の成り立ち・目的・展開について理解する、2) 言語習得・言語処理・学習者特性・教授法・言語能力・多様性といった主要観点について理解を深める、3) 以上を通じて外国語(日本語、英語など)教授の実践者として必要となる基盤的能力の向上を図る。
- 言語コミュニケーション論演習(川上) 1) 教室活動を行うための教科書分析、2) 研究課題を解決するための教科書分析、の2点から、日本語教科書分析について学ぶ。
- 外国語教育コンテンツ論演習(石川) 1) コーパス言語研究の基礎的な概念を修得する。2) コーパスの基礎的な分析技術を修得する。3) コーパスから得られた頻度データの基礎的な処理技術を修得する。4) 記述的視点に基づく言語データの観察方法を修得する。5) 以上を通じて現代日本語学および日本語教育学に関する基礎的知見を深める。
- レトリカル・コミュニケーション論特殊講義(小松原) プレゼンテーション、小説などの技巧的な表現だけでなく、エッセイ、雑誌、新聞、テレビ、SNS、会話、音楽、アニメ、ドラマ、映画などの身近な言語表現から取った具体例の分析にもとづき、特に言語学の視点からレトリックについての理解を深める。
- 言語行動科学論特殊講義(林) ※2025年度非開講

実践研修（教壇実習）

- 日本語教育実践演習（齊藤・川上）
- 第1回 オリエンテーション（模擬授業・教壇実習の担当日の調整）
- 第2回 授業見学
- 第3回～第4回 授業準備
- 第5回～第8回 模擬授業
- 第9回～第14回 教壇実習
- 第15回 教育実習全体の振り返り

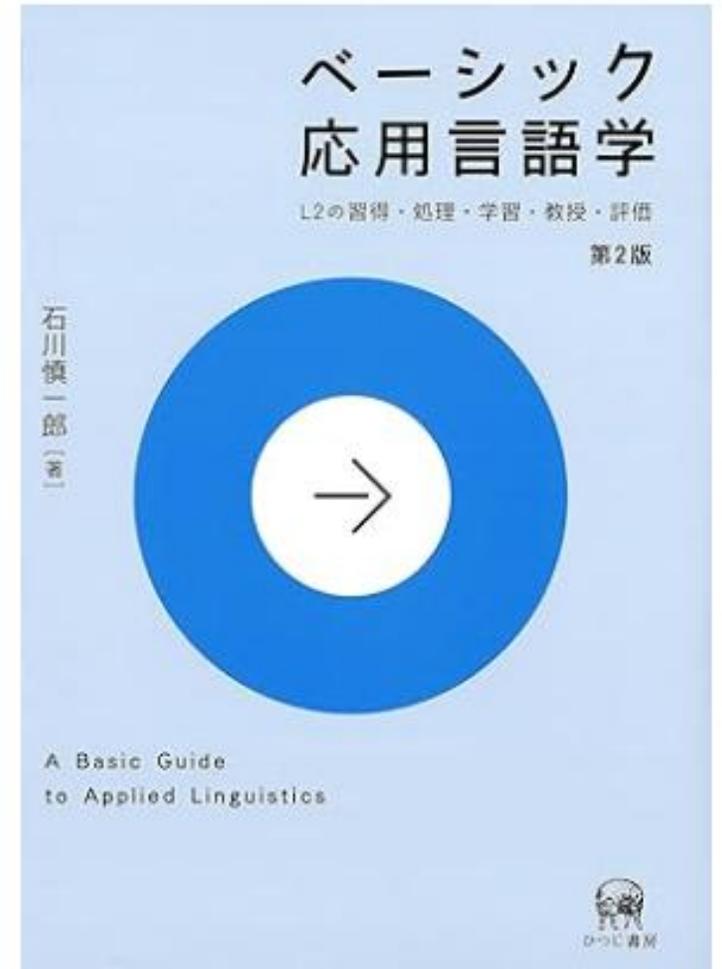


2. サブコース科目の指導例

必修科目「外国語教育内容論特殊講義Ⅱ（応用言語学）」を例に

視察対象授業の全体計画

- 外国語教育内容論特殊講義Ⅱ（応用言語学）
 - 第1章 応用言語学と第2言語教育（萌芽期、確立期、発展期）
 - 第2章 言語習得の基本モデル（経験説、生得説、モニタモデル、複合説）
 - 第3章 言語の対照（対照分析、誤用分析、中間言語分析、学習者コーパス分析）
 - 第4章 言語処理（記憶、ワーキングメモリ、文の理解と産出、脳機能）
 - 第5章 学習者特性Ⅰ（年齢、適性、性格）
 - 第6章 学習者特性Ⅱ（学習スタイル、学習方略、動機づけ）
 - 第7章 言語教授法の確立（グラトラ～オーディオリンガル）
 - 第8章 現代の言語教授法（理解志向型教授法、コミュニケーション志向型教授法、内容志向型教授法、学習者志向型教授法）
 - 第9章 言語能力観（Hymesモデル、Bachmanモデル、欧米日の言語シラバスに見るL2言語能力モデル、習熟度テストにおけるL2技能別能力観）
 - 第10章 言語能力の評価（古典的テスト理論、現代テスト理論、項目応答理論）
 - 第11章 応用言語学の新しい展開（多様性と包摂性、批判的応用言語学）



授業方法の工夫

• 1) 反転授業の導入

• 1週間に、学生は教科書指定範囲(毎回約40p)を講読。授業前日までにチーム定義+質問をLMSに送付。

• 授業では、輪番学生(2名程度)が当該週の内容に関して<教科書に書いていない内容>を調査し、ピア学生に「指導」

• 講師は学生質問等を中心にコメント。ディスカッションの司会

• 2) M2の実習への足場架け

• 神戸大英語授業の見学と評価、日本語学校日本語授業の見学と評価

• 3) 「外国語教育としての日本語教育」アプローチ

• 日中・ブラジル等の英語教育比較などの話題を取り入れる

• 4) 評価方法

• 平常点+試験。試験は、応用試験を見据え、基本的なチーム・概念の定着を確認するチェックテストを実施(100問テスト)



3. 特色ある取り組み

(1) ランチョンセミナー

- 学生サポート+日本語教育専門職への就職支援
 - 2025年度実施分
 - 第1回(4/30) 海外で日本語を教える
 - 第2回(7/31) 中国で日本語を教える
 - 第3回(1/7) 応用試験受験とその先のキャリアパス
 - ※応用試験関連教材類の無償配布も
-
- 応用試験受験を自然に促す仕掛けづくりの必要性
 - (2025年の場合) 7/14~8/22 出願 → 11/2 試験
 - M2夏の段階では、受験に自信のない学生も多く、働きかけも重要



講師は本研究科のOG・OB

神戸大学国際文化学研究所日本語教師養成サブコース

日本語教師養成サブコース 2025年度第1回 ランチョンセミナー ～海外で日本語を教える:OB/OGが語る日本語教師の仕事～

- 日時 2025年4月30日(水) 12:20～13:10
- 会場 F101
- プログラム

- ・開会あいさつ 石川 慎一郎教授
- ・履修者ディスカッション1(自己紹介、コース履修について、研究テーマ等)
- ・第1スピーチ 甲藤 瞳氏(元海外派遣日本語講師)
「現在につながる大学院時代の学び」
- ・第2スピーチ 大塚 真理子氏(元JICA日本語教育隊員)
「ブラジルでのJICA日本語教育隊員としての活動の背景と実際」
- ・履修者ディスカッション2(海外日本語教師について、キャリアパスについて)
- ・閉会あいさつ 川上 尚恵准教授

甲藤瞳氏略歴	大塚真理子氏略歴
<p>2017年に国際文化学研究所を修了。2024年まで国際交流基金やJICAの派遣でラオスの日本語教育に携わる。主な仕事は高校生、大学生、社会人を対象とした授業の実施や教員のブラッシュアップ等。現在は日本国内の留学生や就労者を対象に日本語の授業を行っている。幼少期から「異文化・言語・教育」に関心があり、日本語教師に。修士論文の題</p> 	<p>嘱託非常勤兵庫県教育委員会子ども多文化共生サポーターに勤務する傍ら、神戸大学国際文化学研究所文化相関・地域文化系ヨーロッパ・アメリカ文化論コースに入学、2020年度、博士課程前期課程修了。前期課程修了研究レポート題目は「デカセギ2世ペルー人青年のアイデンティティ」。2023年1月、国際協力機構JICAの日系社会海外</p> 

神戸大学国際文化学研究所日本語教師養成サブコース

日本語教師養成サブコース 2025年度第2回 ランチョンセミナー ～中国で日本語を教える:現状と展望～

中国は、日本語学習者数が世界最多で、日本語教師の数も多数に上ります。このため、就職のチャンスも多い反面、競争も熾烈です。では、日本の大学・大学院での留学経験者が、中国で大学等の教員の職を得ようとする場合、どのようなプロセスをふむ必要があるのでしょうか。また、将来、中国で大学教員や日本語教師になろうとする場合、日本留学中にどのようなことに気を付ければよいのでしょうか。今回のセミナーでは、神戸大学大学院修了生で、中国の湖北大学の日本語科の副教授を務める張晶鑫先生をお招きし、後輩留学生へのアドバイスを語っていただきます。日本語学・日本語教育学を専攻している学生・院生のみならず、また、その他の分野を専攻している学生・院生のみならず、また、留学生を指導しておられる先生方のご参加をお待ちしています。※本イベントは、学外にも開放しています。

- 日時 2025年7月31日(木) 12:20～13:10(終了後、自由参加の懇談会を予定)
- 会場 D603
- プログラム
- ・開会あいさつ 石川 慎一郎教授
- ・講演 張晶鑫氏(中国:湖北大学副教授)
「中国の大学・高校における日本語教育の現状:中国人留学経験者のキャリアパス」
- ・閉会あいさつ

張晶鑫先生の略歴と発表概要
<p>中華師範大学外国語学部日本語学科卒業。武漢大学大学院外国語文学学院日本語専攻博士前期課程修了。神戸大学大学院経済学研究科博士課程前期課程修了。神戸大学大学院国際文化学研究所外国語教育論講座博士後期課程修了。博士(学術)。日本学術振興会「育志賞」を受賞。日本学術振興会 DC2、PD、湖北大学外国語学部講師を経て、現在、同大学副教授。</p> <p>主著として『現代日本語におけるオノマトペの用法解明とその習得』(2022、1 武漢大学出版社)ほか多数。訳書として『語料庫言語学基礎』(浙江工商大学出版社)ほか多数。</p> <p>講演では、後輩の皆さんのお役に立つよう、主として、以下の内容について触れたいと思っています。 ・中国における日本語教育の現状と需要、教育機関別の進路(大学・高校、語学学校)、中国の大学</p>

神戸大学国際文化学研究所日本語教師養成サブコース

日本語教師養成サブコース 2025年度第3回 ランチョンセミナー ～応用試験受験とその先のキャリアパス～

神戸大学は、登録日本語教員養成機関・登録実践研修機関であり、本学の「日本語教師養成サブコース」の課程を履修することで、登録日本語教員となる3要件のうち、基礎試験受験と教壇実習が免除されますが、応用試験については各自で受験して合格する必要があります。ただ、応用試験は始まったばかりで、試験準備のノウハウも十分に共有されていません。今回は、コミュニケーション学院の内田校長をお招きし、応用試験の位置づけや、その先の日本語教員のキャリアについてご講演をいただきます。また、サブコース修了生で、2025年の応用試験に合格された廣沢奇さんに試験対策の方法などを紹介してもらいます。応用試験受験予定者にとってはまたとない機会になると思いますので、多数のご参加をお待ちしています。※本イベントは、学外にも開放しています。

- 日時 2026年1月7日(水) 12:15～13:15(終了後、自由参加の懇談会を予定)
- 会場 D603
- プログラム
- 12:15～ 開会あいさつ 石川 慎一郎教授
- 12:15～13:00 講演 内田さつき先生(コミュニケーション学院校長)「登録日本語教員と応用試験」
(概要)本講演では、登録日本語教員の資格を取得する意味や意義についてお話しし、日本語教師のキャリアの考え方や、さらに応用試験を受験するための心構えや効果的な学習の進め方についてご説明します。
- 13:00～13:10 ミニトーク 廣沢奇さん(博士後期課程2年生)「サブコース受講から応用試験合格まで:後輩へのメッセージ」
(概要)本ミニトークでは、神戸大のサブコース受講を経て、本年の応用試験受験に臨むまでの過程、また、応用試験合格のために行った準備法などについて後輩の皆さんにお話しします。
- 13:10～ 意見交換、質疑応答

講師・話題提供者紹介

内田さつき先生	廣沢奇(れん・たくき)さん
 <p>2001年よりコミュニケーション学院勤務。教員養成や『読む力』シリーズの出版に関わる。文部科学省委託主任教員研修実施委員、日本語教育学会チャレンジ支援委員、ビジネス日本語研究会幹事。外部の多様な機関と連携しながら、学生が社会に主体的に発信できる力を養うための授業実践を行っている。</p>	 <p>大連海軍大学日本語専攻卒業、神戸大学大学院国際文化学研究所博士前期課程を経て現在、後期課程2年生。専門はコーパスを用いたオノマトペの量的分析。2025年度より兵庫県立兵庫高等学校「データサイエンス」科目特別講師。2026年度より文部科学省日本語教員養成実践研修員として登録されている。</p>



(2) ウェブサイトを通じた情報公開・発信



- [ホーム](#)
- [SC概要](#)
- [修了生の声](#)
- [講義ビデオ](#)
- [イベント・NL](#)
- [プログラム評価](#)
- [文科省拠点関連](#)

Link

- [神戸大学](#)
- [神戸大学国際文化学研究科](#)
- [神戸大学国際文化学研究科 Promis](#)
- [文部科学省総合政策局日本](#)

神戸大学国際文化学研究科日本語教師養成サブコースの紹介

高い専門性と教養を備えた次世代の日本語教育リーダーを養成します

神戸大学国際文化学研究科では、発足以来、多くの日本語学・日本語教育分野の研究者や実践者を輩出してきました。この背景を踏まえ、2015年度に、主として博士課程前期課程所属学生を対象に、「日本語教師養成サブコース」を新設しました。

修了生によるインタビュービデオアーカイブ

修了生ビデオインタビュー

サブコース修了者は、日本語教師として、また、日本語や日本語教育に関する知見を持った高度専門人材として社会の各層で活躍し
※それぞれの写真をクリックしてビデオをご覧ください(内容はインタビュー時点のものです)。



2023年度修了生(文化人類学コース修了。現在、民間企業で活躍中)



2023年度修了生(感性コミュニケーションコース修了。現在、日本語教師として活躍中)



2022年度修了生(外国語教育コンテンツ論コース修了。現在、民間企業で活躍中)

ニューズレターの定期刊行

発行日:2025年9月30日



News Letter

にほんごをおしえる

第3号

神戸大学大学院 国際文化学研究科 学生研究支援員/博士課程後期課程1年 中村 堯

猛暑の夏も過ぎ去り、ようやく9月らしい季節となってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。今回のニューズレターは、インタビュー企画をお届けします。この企画を通して、日本語教師の先輩方が普段どのようなお考えをもって日本語教育に携わっているのか迫ろうと思います。記念すべき初回の先輩教師は、私にとって院生の先輩でもあり日本語学校の同僚でもある南波真知先生です！

突撃！日本語教師インタビュー！



「日本語をもっと学びたい!」と思ってもらえる教師を目指して

—— 本日はよろしくお願いいたします(笑)。

南波先生: よろしくお願ひします(笑)。

—— 南波先生は日本語教師として働き始めて4年目だと思ひますが、普段どのような授業をされているのでしょうか。

南波先生: 勤務し始めてからこれまで、初級クラスを継続して担当しており、『NEJ』という教科書を使った授業と、サバイバルレベルの日本語コミュニケーションの授業を行っています。また、現在、初中級クラスの学生には JLPT N3対策の授業も担当しています。

南波先生: 原点は大学時代の留学ですね。中国に1年間留学をしたのですが、そのときの世界各国の学生との交流が出发点になっています。日本語教師をする前には、国内や海外でさまざまな仕事をしてきましたが、自分の中の軸は国際交流だと実感し、ことばを教えることに興味が生まれました。海外の人との交流が好きだという気持ちが現在の自分を支えていると感じています。

—— たしかに日本語教師は海外の学生といろいろなインタラクションがある仕事ですよ。南波先生は、ご自身のご研究で

受講生評価・自己評価結果の外部公開

神戸大学国際文化学研究科 日本語教師養成サブコース

2025年6月10日

神戸大学大学院国際文化学研究科「日本語教師養成サブコース」自己点検報告書

1. はじめに

登録日本語教員養成機関ならびに登録実践研修機関として、カリキュラム及び教育体制の不断の点検と改善を行うため、サブコース内規第14条に基づき、自己点検報告を行う。

2. 自己点検の時期と期間

サブコース内規第14条では、年度末の自己点検評価を義務付けているところであるが、登録機関として学生を受け入れたのが2025年4月であるため、今回は、2025年5月～6月にアンケートを実施し、自己点検評価を実施した。

3. アンケートの対象者

・受講生(2024年度入学の現在M2生+2025年度入学の現在M1生。※)2024年度入学生は登録以前の旧カリ学生)

・科目提供教員(2024年度以前の旧カリにおける科目提供教員+2025年度以降の新カリにおける科目提供教員)

・コース履修学生指導教員(上記との重複者を含む)

※いずれも回答は任意。回答は記名式。

4. アンケート結果の要約

4.1 受講生対象アンケート結果

回答者数 M1:5名、M2:5名、合計9名

属性	M1 平均 (/5)	M2 平均 (/5)	全体平均 (/5)	全体 SD
Q1 これまでのサブコースでの学びに	4.2	4.25	4.22	0.97

日本語教師養成サブコース履修者へのアンケート調査(2025年1月)結果

1. 回答者

回答者数: 11名(対象者11名)※2025年3月修了者

回答率: 100%

2. 質問紙の構成

1)履修前、2)履修中、3)履修後、4)全体を通して、の4つのカテゴリーに分け、1)～3)はそれぞれ大問4～5問、計14問(小問含め19問)から構成、4)は1問で構成

3. 結果

3-1. 履修前

1. 大学院での専攻について、次の①と②にお答えください。

① 大学院でのあなたの専攻(研究テーマ)は、日本語教育と関係するものだと思いますか。関係すると思う場合は「はい」、そうでない場合は「いいえ」とお答えください(選択)

はい	いいえ	わからない*
6	4	1

*選択肢は「はい」「いいえ」だけであったが、「わからない」という記述があった

2. 日本語教師養成サブコース履修前は、日本語教育に関してどのような経験がありましたか(複数選択可)

項目	A日本語教授	B言語教授	C日本語教育に関する学習	D言語教育に関する学習	E日本国内交流	F海外交流	G日本語学習	H日本語学学習	I特になし	Jその他
回答数	8	4	3	9	9	9	4	8	3	0

外部評価の体制と実施

- 1) SC学術連携協定に基づく外部評価委員の委嘱
 - コミュニカ学院校長 内田さつき氏
 - JF関西国際センター日本語教育専門員 熊野七絵氏
- 2) 実施実態調査
 - SC外部評価委員である内田さつき先生（コミュニカ学院校長）が、サブコース授業を参観（2026年1月7日）
- 3) 外部評価
 - 2026年3月中に、内部評価報告書および関連資料を外部評価委員に送付
 - 2026年3月24日に、オンラインにて、2名の外部評価委員を招いて評価委員会を実施
 - 年度末をめぐりに、外部評価報告書をオンラインにて公開

4. 登録機関留意事項への対応

留意事項対応（全般）

- 教育課程について日本語教育の専門性を有する者が引き続き編成作業に携わり、申請機関全体として共通理解を図ること。
- 日本語教師養成サブコース委員会所属の4名の委員（教授2+准教授2。全員が日本語学・言語学・言語教育学関連分野の博士号所持者）がカリキュラム全体を管理。
- 必須項目や登録日本語教員制度について学べる「オンラインビデオ」を作成し、科目提供教員に視聴してもらうことで、機関全体としての意識向上を図った。
- 「登録日本語教員実践研修・養成課程コアカリキュラム」を踏まえ、受講者が必須の教育内容を確実に習得し、日本語教育が実践できるよう、改めて各学習項目の修得方法を整理し、授業の工夫を図ること。
- 50項目については、必修科目だけで全体がカバーできるようカリキュラムを設計し、その上で、選択科目を通して各項目の強化が図れるように対応している。
- あわせて、学生・科目提供教員向けの記名式アンケートを実施することで、学生・教員からの要望を拾い上げ、問題がある場合は日本語教師養成サブコース委員がサポートを提供できる基盤を整備した。

留意事項対応(全般)2

- 実践研修や養成課程の実施を通じて、「日本語教育の参照枠(報告)」についての理解や意識づけが十分に行われるよう、引き続き工夫を図ること。
- 本研究科にはCEFRや欧州の言語政策を専門とする者もいることから、そうした専門家の助力も得つつ、参照枠の理念が提供科目全体に十分に反映されているかどうかサブコース運営委員会においてシラバスチェックを行った。
- 運営委員や科目提供教員は、拠点研修会や関西日本語教師ネットワークが主催する参照枠をテーマにした講演会・研修会に積極的に参加し、最新の知見を得るよう努めた。
- 2026年度新規担当者用に「参照枠」解説ビデオを作成し、視聴を依頼する予定である。
- 授業時間以外に授業時間の二倍に相当する時間の自学自習を促すようなカリキュラムとなっているかを再度確認し、常に学び続ける素地を養うこと。
- 神戸大学においては、「学修振り返り」制度があり、家庭学修時間を把握・管理している。
- 加えて、シラバスにも家庭学修の内容などに言及することに努め、文部科学省の定める適切な学修時間の確保が図られるよう対応を行っている。

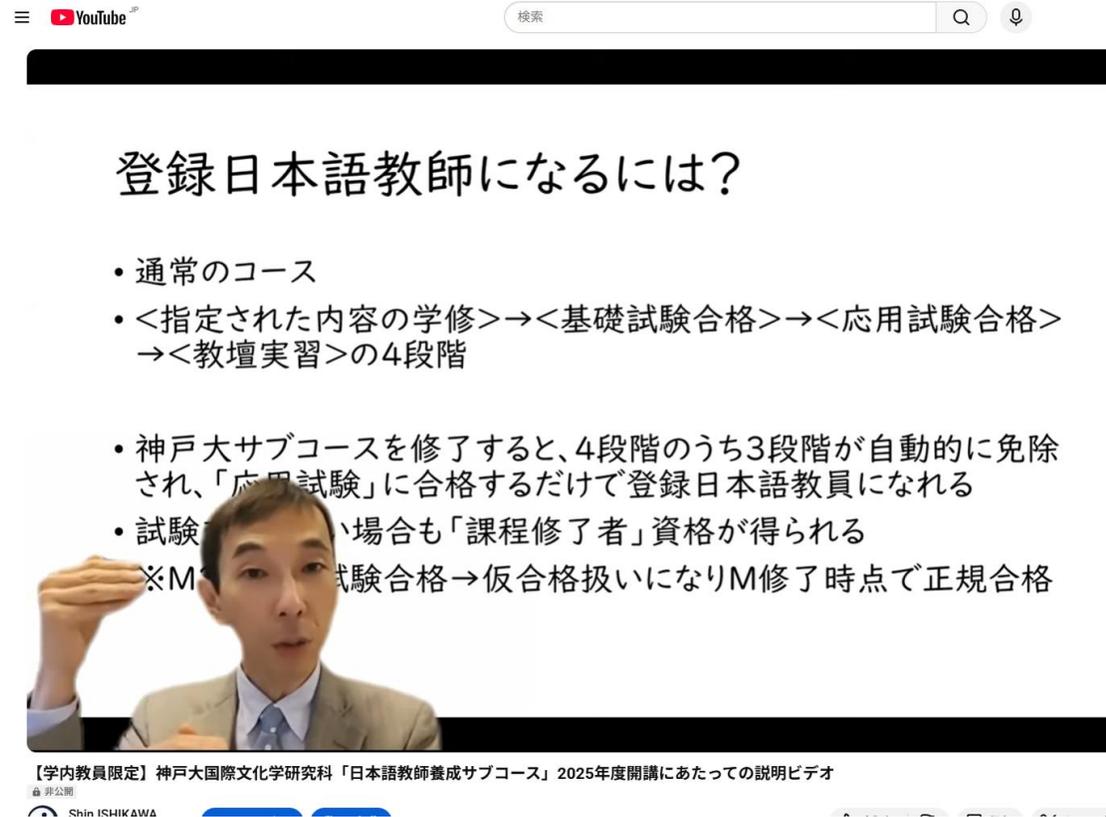
留意事項対応（全般）3

- 登録実践研修機関が責任を持って教壇実習等に関わる体制を引き続き構築すること。
- ■学内の「グローバル教育センター」において実践研修を実施。
- 実習科目担当責任者2名は、サブコース運営委員会委員を併任。
- こうした制度設計を取ることで、登録実践研修機関が責任をもって実習を運営する担保としている。

留意事項対応（機関別指摘）I

- 大学院に設置する養成・研修であることに鑑み、幅広い教養と高い課題解決能力を有した日本語教員の育成が期待できる。
- 当該コースに関わる教員間の連携をさらに強化し、登録日本語教員養成の目的と趣旨が引き続き担当教員間で確実に共有されるようにすること。
- 「幅広い教養と高い課題解決能力を有した」教員養成を強化すべく、2025年度においては、年度当初の大学院生全員が出席するオリエンテーションにおいてサブコースの説明を拡充し、幅広い専門の学生の受講がなされるよう体制整備を行った。
- 科目提供者向けビデオ2本を作成し、科目提供教員全員に視聴を求め、登録日本語教員養成制度の概要や必須の学修項目、また、参照枠の理念について説明を行い、全教員が人材養成理念を共有できるよう対応を取った。
- 新課程2年目にあたり。選択科目を4つ増設し、関連教員ネットワークの拡大を行った。

科目提供教員向け解説ビデオ（学内限り）



YouTube

検索

登録日本語教師になるには？

- 通常のコース
- <指定された内容の学修> → <基礎試験合格> → <応用試験合格> → <教壇実習> の4段階
- 神戸大サブコースを修了すると、4段階のうち3段階が自動的に免除され、「応用試験」に合格するだけで登録日本語教員になれる
- 試験に合格しない場合も「課程修了者」資格が得られる

※M修了試験合格 → 仮合格扱いになりM修了時点で正規合格

【学内教員限定】神戸大国際文化学研究所「日本語教師養成サブコース」2025年度開講にあたっての説明ビデオ

Shin ISHIKAWA

留意事項対応（機関別指摘）2

- 実践研修の実施について、試験ルートを含む様々なニーズにできる限り多くの登録実践研修機関が対応することの重要性に鑑み、大学として設ける科目など履修生の制度を活用すること等により、自大学の学生以外の者の新たな受け入れ又は既存の受け入れ枠のさらなる拡大について検討すること。
- 地域中核国立大の責務もふまえ、本学での実践のノウハウを地域の他大学に提供。近隣大学における同様の課程運営への助言指導を実施。
- あわせて、以下の2つのオプションについて実施可能性を検討中。
 - 定員に余裕がある場合に限り…
 - (案1) 本学卒業生の小中高の現職教諭で養成課程修了者に実習機会を提供
 - (案2) 神戸市教委の推薦を受けた神戸市立小中高の現職教諭で養成課程修了者に実習機会を提供
 - ※ただ、物理的制約により、実施しても、1~2名までの規模感になると予想される。

Thank you.